

アクリル容器を使った多肉植物の寄せ植え

作成者：大阪テクノ・ホルティ園芸専門学校 藪 正秀

- 対象者・人数：小学校中学年以上 1クラス30～35名
- 所要時間：60分
- 指導者・アシスタント人数：指導者1名、アシスタント2名
- 実施場所：学校 児童館等

■ 資材

- ・アクリル容器 (15cm×10cm×5cm程度)
- ・セラミス用土 少々
- ・小石 3個
- ・フィギュア (動物型や人型の模型)
- ・ピンセット 1個
- ・受皿 2個
- ・土すくい 1 (小)

※スイーツなどの空き容器を用いても良い。

※その他容器を深皿にし、絵を描いたりしても良い。

※動物型や人型の模型を色々使って工夫すると面白い。

■ 花材

- ・多肉植物5株程度

※容器や多肉の大きさによって数を増減するなどの工夫が必要。



【指導内容と目的】

- ・自分で作った事によって、植物に興味や愛着を持って育てて貰う。
- ・乱雑に扱おうと葉を落としたり、折れてしまったりするので、生きている物を使うときは優しく扱う事を学ぶ。また、落としてしまった時も、捨てずに、新たな芽として活かす方法を教え体験する。

【対象者への配慮】

- ・多肉植物を触って落としてしまった葉も、他の植物の葉と違い、新しい芽が出てくる事を説明し、捨てないでおこうと声をかけておく。
- ・この植物が他と違って、水の管理が頻繁でない事など管理方法を伝える。
- ・植物には個体差があるので、同じ物でも隣の人と株姿が違ったりする事を伝える。
- ・陶器等の割れ物を容器とする場合は、持ち帰り方法もしっかり伝えて割れないように新聞やエアパッキンなどを用いる。
- ・多肉植物の寄せ植えを持ち帰るときは用土がこぼれないように注意をし、土の表面には、軽く濡らした新聞を適当な大きさに切つてのせ、袋を揺らさないようにして持ち帰らせる。

① 事前の準備

・机の上に新聞を広げて、材料を1人分ずつ配布する。

・ピンセットが人数分用意出来ない場合は、割り箸などで代用する。

・苗をよく確認し、痛んでいる葉は取り除いておく。



・容器はその他、色をついたプラスチック容器や深皿、マグカップなどに色を塗ったりし、応用出来る。ただし、割れ物の扱いは、十分注意する。

・持ち帰りの袋は、ジャストサイズの物が好ましい。

・出来れば箱の中に収め、袋に入れて持ち帰れば、偏りを軽減出来る。

・落ちた葉から芽が出て来た時の写真なども用意しておきたい。



② 当日の流れ

■ 具体的な手順・作業ポイント

- ① アクリル容器にセラミス用土を半分程度入れる。 ② 多肉植物の高さと色を考慮して並べる。



- ③ ピンセットを使って多肉植物を大きなものから植える。
頭が重い多肉植物は倒れやすいためしっかりと植える。



- ④ 次に中～小の多肉植物を植える。
バラバラに植えず、ある程度まとめてグループのように植える。



- ⑤ 小石か溶岩の小さなものを自然な感じに並べる。



- ⑥ 動物型、人型などの模型があればアレンジするとより楽しさが表現できる。

■ 管理について

室内の窓辺など日当たりと風通しの良いところで育てる。

水は控えめに、特に冬場は水を切らし加減で、肥料は春から秋にかけて液体肥料の1000～2000倍液にうすめたものを月に1～2回水やりをかねて与える。

伸びすぎたり大きくなってバランスが崩れたら、一回り大きな容器に植え替える。



プリンカップやスイーツの空き容器を使ってもよい。

株数は容器に合わせて減らす。

フィギュアがない場合は、お弁当用のピックなどで代用しても良い。

